

組合だより

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

特別号
8月27日
2008年

発行所 岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1
電話 086-252-1111(代)
(内線) 7168
直通・FAX 086-252-4148

事務職員アンケートより

アンケートから見える事務職員の気持ち



岡山大学で働いている正規の事務職員約500名の内98名の方々から回答が寄せられました。お忙しい中にもかかわらずアンケートに回答して下さった方々に厚く感謝いたします。事務職員の声がこれほど集まったことは、組合員が僅かしかないという現状に鑑みれば画期的なことと言えます。事務職員全体の意見をどの程度反映しているかは慎重な判断を要しますが、今回のアンケートに表れている傾向についてコメントをしたいと思います。自由記述にも貴重なご意見が寄せられていますが、そちらは後日ご報告いたします。

教員に求めるもの - 事務職員の業務に対する理解

大学を良くしていくために教員に求めることのトップ(50%)が「事務職員の業務に対する教員の理解」、2位(21%)が「目指す目的の共通理解」でした。70%以上の方が教員とのコミュニケーションを求めています。多忙な業務の中で「大学学部等の意志決定への参画拡大」には躊躇している様子がうかがえますが、それでもそれを求める声は少なくなく、今後の大学運営のあり方を検討すべきです。



業務改善の現状 - 部局の人員減少と業務増による多忙化

事務の業務改善の現状については、「現場対応の遅れ」による「組織の再編でも、実態に変化なし」が約半数、「紙書類の減少」はあるものの「業務が増えた」「多忙化」を訴える声もそれぞれ40%、28%と多く、「業務改善」の改善が必要なようです。

超過勤務 - 増えつつある

超過勤務は半数近く(45%)の人が「増えつつある」としており、「変わらない」「減りつつある」の合計(39%)より多く、法人化により業務が増加し人員が減少している結果を示しています。変化だけでは判断できませんが、忙しい部署がますます多忙化して、サービス残業が増えているのではないかと心配です。



健康に対し約半数が不安

健康に対して、「不安はない」の33%を大きく上まわって、約半数(47%)の方が不安を感じています。「仕事量が多い」「超過勤務が日常的に多い」「休暇が取れず疲れが取れない」など、健康面からも業務改善に課題が残っていることを示しています。肉体的にも精神的にも健康に対する取り組みを重視する必要があります。

求められる能力、身につけたい能力

求められる能力としては、「企画力」をトップに、「課題解決能力」「経営能力」「情報収集処理能力」「課題発

見分析能力」を約半数以上の方が挙げられています。法人化による「意識改革」の成果と思われる。身につけたい能力の方は、「課題解決能力」がトップで、求められる能力としてはやや低くランクされていた「コミュニケーション能力」「職務知識、制度運用能力」「折衝能力」なども肩を並べ、より現実的に判断されているようです。



能力取得に大学に求めること - 研修、事務職員同士の意見交換の場

事務職員の能力取得に大学に求めることに、「研修の充実」(30.6%)、「事務職員同士が自由に意見交換できる場作り」(23.5%)、「自己啓発への支援」(22.4%)があがっているのは、求められる能力・身につけたい能力への積極的な姿勢を表しているものです。大学は事務職員の向上への意欲を積極的に受け止めてほしいものです。

私たちは、組合こそ「事務職員同士が自由に意見交換できる場」ではないかと考えています。大学に求めるだけでなく、事務職員自らがそのような場を組織する主体性をもつことが期待されます。

昇任人事 - 生え抜きの幹部への昇任が増えているが昇任基準は明かでない

「生え抜き職員の課長等への昇任が増えている」ことを喜ぶ声(25.5%)とともに、最も多かったのは「昇任の基準が明かでない」(33.7%)で、半数以上の方が何らかの不満を表明しています。みんなが納得できる昇任制度が望まれます。

人事評価 - 改善が必要

人事評価や昇給制度の運用については、「基準や運用を明確化」「評価者の研修」「結果の本人への開示」「複数者による評価」を約半数の方が希望しており、始まったばかりとはいえ早急な改善が必要になっていきます。

～ 全国と比較して ～

全国平均を上まわる約半数の方が「事務職員の業務に対する教員の理解」を求めています。事務の業務改善について、「部局の人員減少による現場の対応の遅れ」を過半数(全国の約2倍)の方が指摘しています。全国と比較して、**超過勤務が「増えつつある」**が多く、「減りつつある」が少ない。「増えつつある」が「減りつつある」の3倍近い(全国では1.5倍弱)。その結果、「**超過勤務が多く日常的に疲れを感じる**」が全国よりかなり多い。

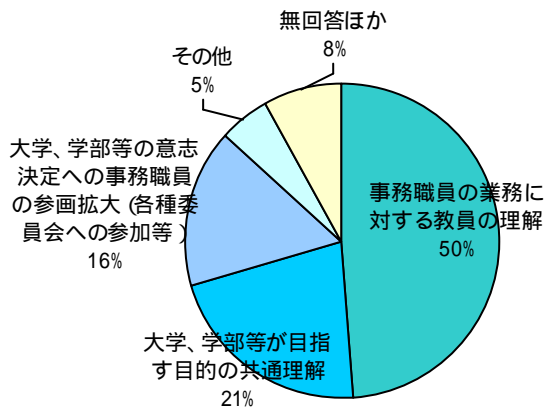
昇任人事では、「**生え抜き職員の課長等への昇任が増えている**」とする意見が全国より多い。大学に対しては「**研修等の充実**」を求める声、人事評価については、「**評価者の研修**」「**複数者による評価**」「**評価結果の本人への開示**」を求める声が全国より多い。

これらからは、業務改善が遅れ、増加する超過勤務に疲れを感じながら、教員の理解、研修の充実、公正な評価を求める真面目で健気な岡大事務職員像が浮かんでくるように思われます。

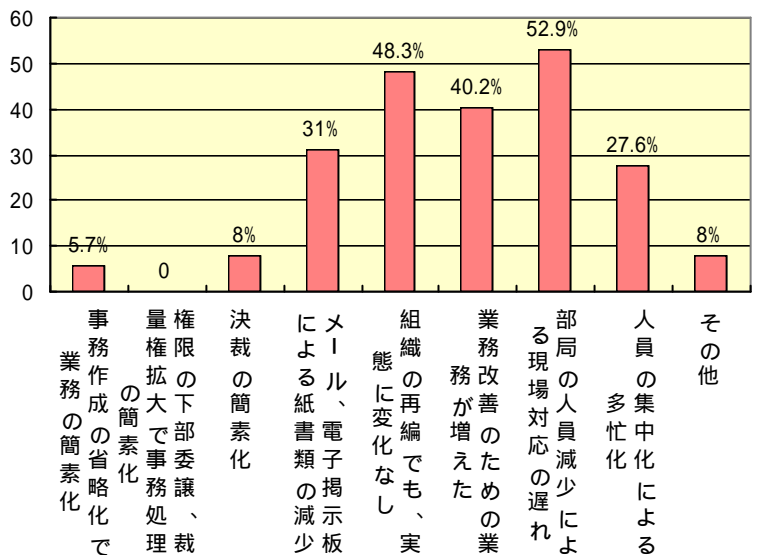
(文責 榊原 精)

岡山大学 事務職員アンケート特集

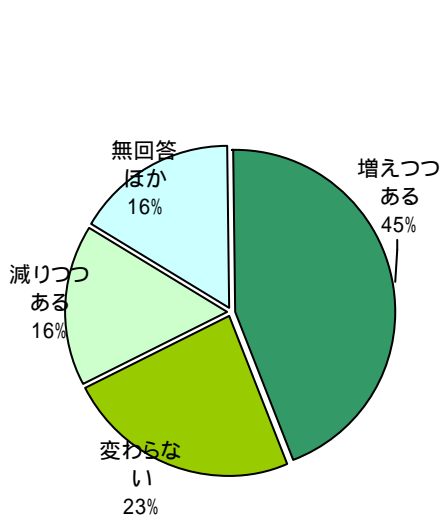
1大学をよくするために教員に求めること



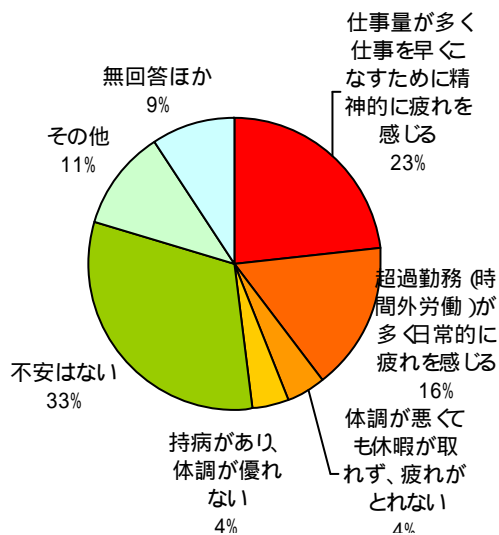
2事務の業務改善の現状について(複数回答可)



3超過勤務時間



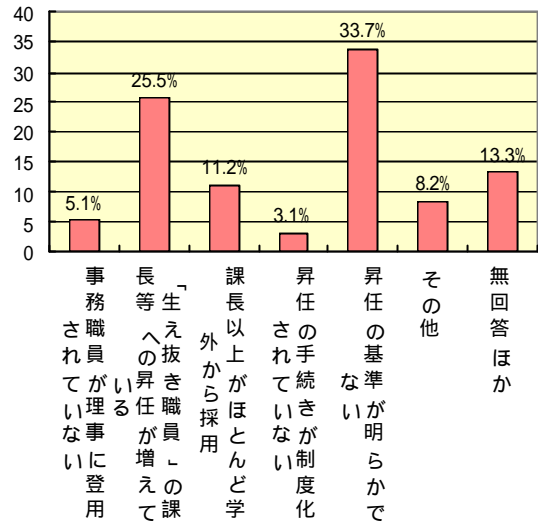
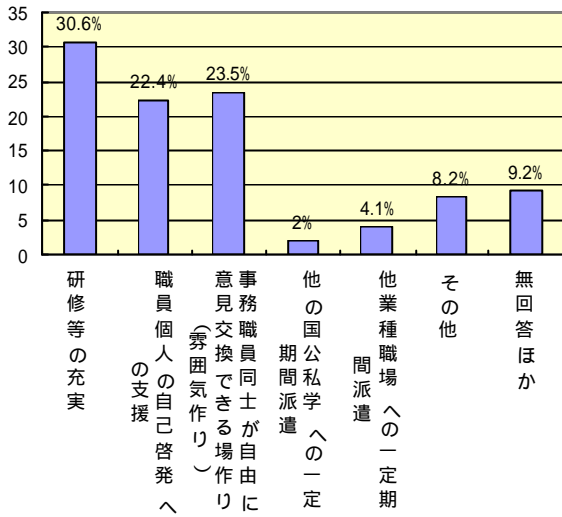
4健康について不安を感じること



能力が生かせ、やりがいのある仕事。職場環境の改善を！

5事務職員の能力習得に大学に求めること

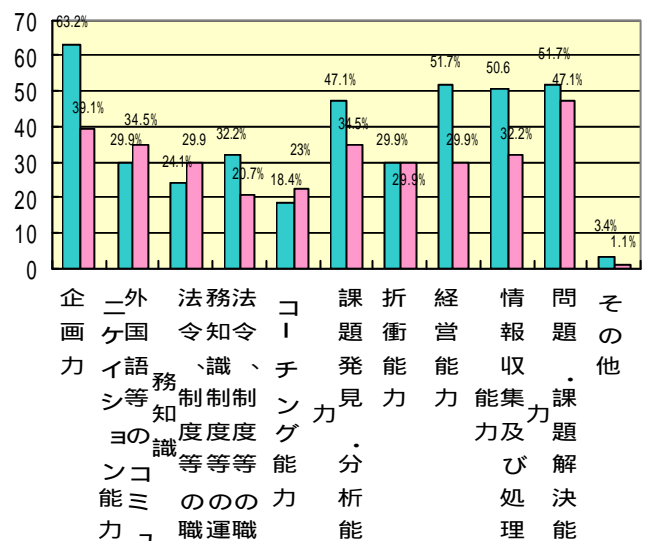
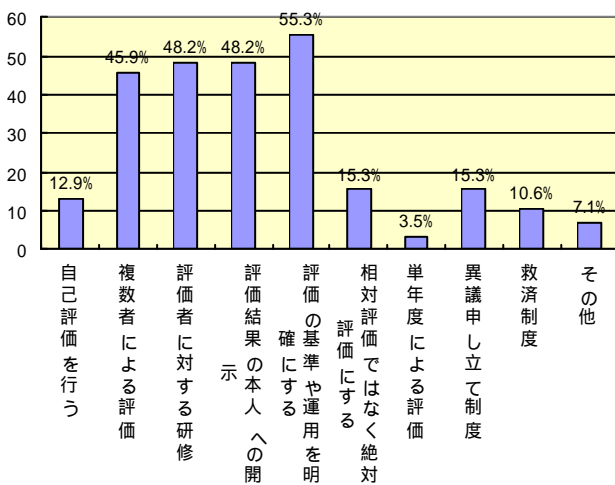
6人事評価や昇給制度の運用について(複数回答可)



7人事評価や昇給制度の運用について

求められる能力は？ 身につけたい能力は？

求められる能力 □
身につけたい能力 ■





泉谷淑夫 空の詩III 2008

クリアファイルデザイン「空の詩 2008」泉谷淑夫氏